

淀川計器製作所

2023 年度 環境経営レポート

(2023年1月1日 ~ 2023年12月31日)



P R E S S U R E G A U G E

作成日： 2024年2月20日

目 次

項 目	ページ
あいさつ	2
環境経営方針	2
組織の概要	3
事業・製品の紹介	3
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価	6～9
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	10
緊急事態対応訓練	10
代表者による全体の評価と見直し・指示	11
これまでの環境活動の紹介	12

～取組の紹介～

淀川計器製作所では、お客様のニーズに対応した製品作りと、環境に配慮した製品の製造に取り組み、エコアクションに沿った活動を行う。

前期同様、コロナ禍の中これまで通りのスムーズな取り組みを行うことも難しい中、各々が工夫をし、社員一丸となって取組を行った。

□ごあいさつ

弊社はアネロイド型圧力計を製造し、50年以上が経ちました。

日本は資源に乏しい環境にあります。その少ない資源を有効に活用し、
今後もより良い製品を世の中に提供致します。

<経営理念>

誠意・熱意・創意を心掛ける
品質改善・品質向上・生産性向上に努める
礼節を重んじ信頼を保つ
共存・共栄を築く

環境経営方針

<環境経営理念>

私たちは、ますます深刻化する地球温暖化や、今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題との認識にたち、圧力計製品の設計・製造・販売等の事業活動における環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。

また、環境関連法規制や当社が約束したことを順守し、環境マネジメントシステムの確立と継続的改善します。この環境方針は全ての全社員に周知徹底します。

<環境保全への行動指針>

1. 電力燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
2. 廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）の推進
3. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
4. 工場全体の3S（整理・整頓・清掃）推進
5. 環境に配慮した生産活動
6. 適用される環境関連法規などの遵守



制定日：2018年1月10日

改定日：2021年5月30日

代表取締役社長 富田 将之

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

淀川計器製作所

代表取締役社長 富田 将之

(2) 所在地

本社・工場

〒566-0073 大阪府摂津市鳥飼和道2-9-4

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 富田 将之

担当者 松浦 薫

(4) 事業内容

圧力計及び圧力スイッチの設計、製造、販売

主要製品：グリセリン封入圧力計

(5) 事業の規模

生産台数 161 千台

		合計
従業員	名	19 名
延べ床面積	m ²	464.67 m ²

(6) 事業年度

1 月 1 日 ～ 12 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

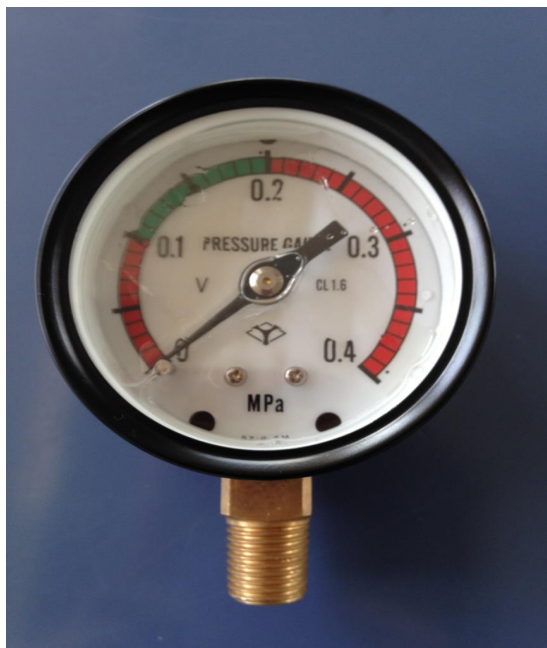
登録組織名： 淀川計器製作所

対象事業所： 本社・工場

対象外： 該当なし

活動： 圧力計及び圧力スイッチの設計、製造、販売

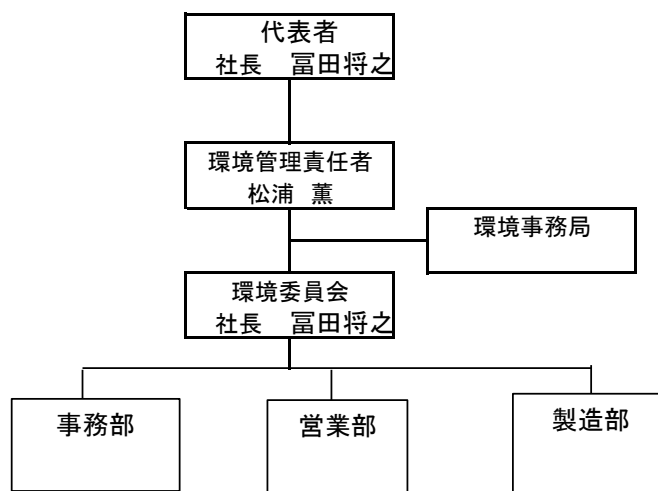
□事業や製品(商品)の紹介



当社の製品は、環境に配慮した材料の仕様となっており、カドミレス・ナマリレス化を図って製造しております。

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2017年4月11日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
環境委員会	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	26,001	25,911	16,857
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	87.4	74.6	31.4
産業廃棄物排出量	kg	35.1	35.1	26.4
総排水量	m ³	532	548	439

※二酸化炭素排出係数は 0.496 kg-CO₂/kWh 2015年度関西電力の調整後の係数を採用

※二酸化炭素総排出量には、灯油使用分 2,285 kg-CO₂を含みます。

□環境経営目標及びその実績

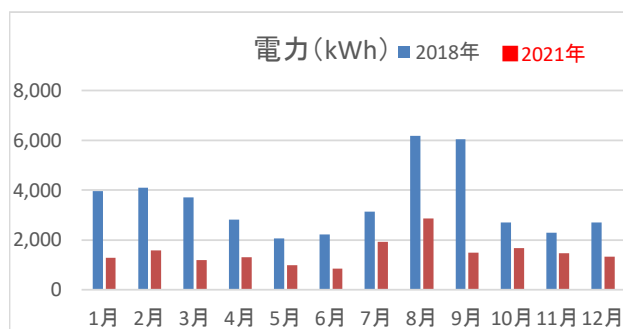
項 目	年 度	基準値	2023年		評価	2024年	2025年
		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	46,236	45,542	11,890	○	44,636	44,414
	基準年度比	2018年	98.5%	25.7%		98.0%	97.5%
プロパンガスによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,702	1,676	1,475	○	1,173	1,167
	基準年度比	2018年	99.5%	88%		98.0%	97.5%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	2,354.9	2,320	1,207	○	2,308	2,296
	基準年度比	2018年	98.5%	51%		98.0%	97.5%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	50,293	49,538	14,572	-	48,117	47,877
一般廃棄物の削減	kg	180	88	31.4	○	88	87
	基準年度比	2018年	98.5%	17%		98.0%	97.5%
産業廃棄物の削減	kg	42	42	26	○	42	41
	基準年度比	2018年	98.5%	62%		98.0%	97.5%
水道水の削減	m ³	569	560	439	○	558	555
	基準年度比	2018年	98.5%	77%		98.0%	97.5%
工場全体の3S運動の推進	点	75	89	94	○	90	91
	基準年度比	2018年	119%	125%		120%	121%
環境に配慮した生産活動	・ 不良率低減						
	・ 廃棄率削減（加工品の失敗）						

□環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標：○達成 ×未達成

活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	暖房及び冷房に扇風機をプラスすることで室内の空気が循環されて、温度設定を変えることが目標達成に繋がった。こういった少しの取組みを社員一同で行っていることが評価出来る。
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	次年度は、引き続きさまざまな視点で取組みを行う。
・不要照明の消灯	○	
・ノー残業デーの実施	○	
・生産工程の待機時間短縮	○	
・空気圧縮機のエア洩れ点検	○	



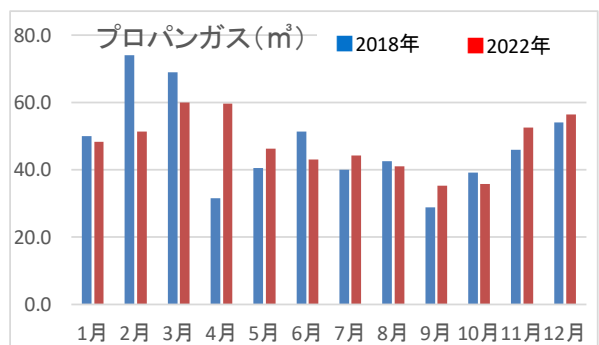
取組紹介欄

目標達成手段として、以下の事も行っている。

- ・事務所の一部の蛍光灯を抜いている
- ・冬場の給湯はポットで沸かさず、ストーブを利用している
- ・節電ポスターを電気スイッチ部分等に貼り付けている。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2018年	3,959	4,091	3,696	2,823	2,053	2,220	3,124	6,172	6,045	2,696	2,297	2,701
2021年	1,286	1,573	1,180	1,308	979	844	1,927	2,866	1,483	1,673	1,464	1,324

プロパンガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	グリセリンの温度は温度計を使用し、適正温度に設定していることで無駄のない様にしている。温めが必要なグリセリン入り圧力計については、まとめて注入することで再度温めることなく無駄のないように作業している。
・グリセリン温め時の温度の適正化	○	次年度も引き続き同様の取組みを行う。

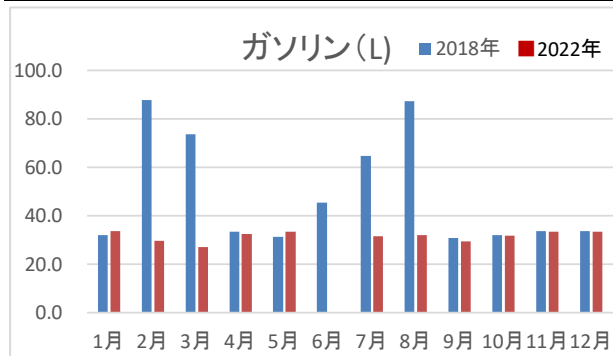


取組紹介欄

- ・作業工程の中で使用しているのは一部の為、目標達成手段のグリセリンの温度の適正化に対しての取組み以外に特になし。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2018年	50.0	74.0	69.0	31.5	40.6	51.3	40.0	42.5	28.8	39.2	46.0	54.0
2022年	48.3	51.3	60.0	59.6	46.3	43.1	44.2	41.0	35.3	35.7	52.6	56.5

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	タイヤの空気圧などこまめに点検を行うようにすることで、ガソリンの適正化を図っている。最短ルートなどを考慮した運転を心掛けている。 次年度も引き続き同様の取組みを行う。
・アイドリングストップ	○	
・燃費向上運転の実施	○	

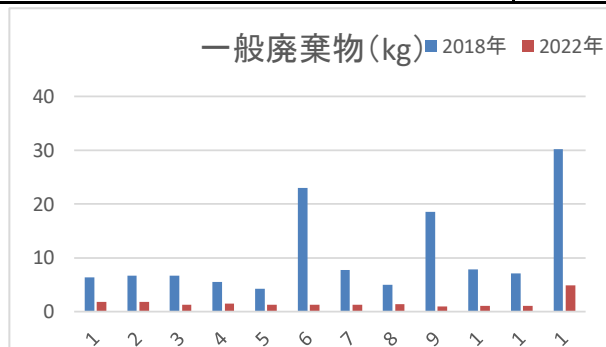


取組紹介欄

- ・車内の冷暖房を控えめにする
- ・最短ルートなどの運転を心掛ける

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2018年	31.9	87.8	73.7	33.5	31.2	45.5	64.7	87.2	30.8	31.9	33.7	33.6
2022年	33.7	29.7	27.0	32.6	33.4	0.0	31.6	32.1	29.5	31.8	33.5	33.5

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	目標達成。梱包時新聞紙、緩衝材などの再利用を徹底している。 次年度も同様に取組みを行う。
・分別の徹底	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	○	
・梱包材の再利用	○	

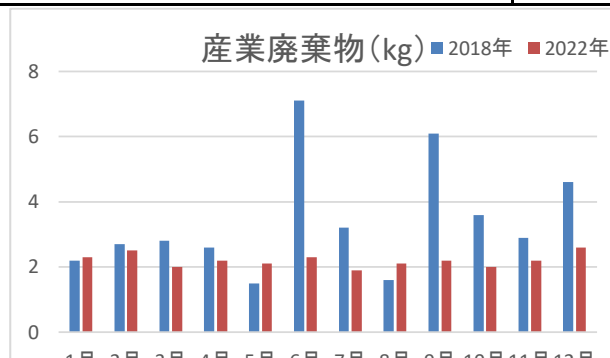


取組紹介欄

- ・コピー用紙及びFAXの裏紙をメモ等に使用
- ・不要ダンボールを敷板等に再利用

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2018年	6.4	6.7	6.7	5.5	4.2	23	7.7	5	18.5	7.8	7.1	30.2
2022年	1.8	1.8	1.3	1.5	1.3	1.3	1.3	1.4	1	1.1	1.1	4.9

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	作業ミスによる不具合などはその場で修繕しているため不良品として出る部品は殆どなし。各々手元においてもゴミの分別は徹底されており、最終収集する際においても再度確認しているので、ゴミが混在されることはない。次年度も同様に取り組みを行う。
・作業ミスによる廃棄量の削減	○	
・素材別ボックスの設置	○	

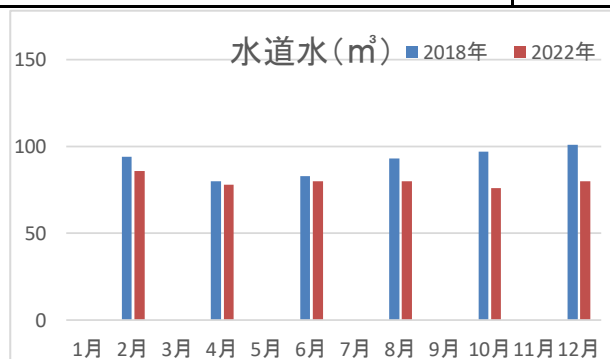


取組紹介欄

・部品が入ってくる発砲スチロールを窓に断熱材として使用しており、産廃ゴミ削減へと繋がると共に空調の節電にも繋がる。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2018年	2.2	2.7	2.8	2.6	1.5	7.1	3.2	1.6	6.1	3.6	2.9	4.6
2022年	2.3	2.5	2.0	2.2	2.1	2.3	1.9	2.1	2.2	2.0	2.2	2.6

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	女子トイレのタンクの水が流した後、流れたままになっていることが多々見受けられたが、各々が目視確認することで改善された。作業用水についてはある程度一定のため、生活用水について次年度は各自意識して取り組みを行う。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・節水弁取り付け	○	



取組紹介欄

・植木は雨水及びエアコンの室外機からの水をバケツに溜めて使用している。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2018年	0	94	0	80	0	83	0	93	0	97	0	101
2022年	0	86	0	78	0	80	0	80	0	76	0	80

工場全体の3S運動の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	部品や製品などの明記や在庫管理がかなり徹底されている。清掃についても各々が気が付いた時に行っている。一部片付けが出来ていない場合もあるので次年度は各々使用した部品など使用後の身の回りの確認を徹底することとする。全体的に高評価ではあるが、使用後の片付けなどが出来ていない事もあるため、次年度は使用後の片付けを徹底するよう注意喚起する。
・ 整理・整頓・清掃のルール作り	○	
・ 整理・整頓・清掃の評価	○	
・ 部品・仕掛品・製品・在庫の管理	○	
・ 作業場所と通路の区分明確化	○	

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・ 不良率低減	○	作業中の不良品についてはその場で修繕利用しているため計上する不良品はほとんどない。そのことから廃棄するものも殆どでない状況。今後の取組みとしても、出来る限り修繕しながら製作する。
・ 廃棄率削減（加工品の失敗）	○	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	収集運搬業、中間処理業、産業廃棄物（廃プラ、廃ガラス、廃油等、蛍光灯、電池）
フロン排出抑制法	点検実施、フロン類の適切な処理、回収・破壊の工程確認
家電リサイクル法	テレビ、洗濯機等指定業者への引き渡し
自動車リサイクル法	社用車 指定業者への引き渡し
高圧ガス保安法	LPGボンベ、窒素ガスボンベ、酸素ガスボンベを転倒しないように設置
顧客要求事項	品質管理 EA2 1 認証継続

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等

・特になし

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定：火災の発生	
■実施日： 2023年11月14日	■実施場所 淀川計器製作所建物内
■参加者： 全従業員19名	
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練 声だし避難、消火器の使用方法等の火災時における避難訓練	
■評価： 全員速やかに避難する事ができた。	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子 ・ 火事を発見したものが大きな声で避難を呼びかけ、全員が1階屋外に無事避難。 ・ 同時に担当者が119番に通報。 ・ 避難訓練後、社長による消火器の使用方法など 	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年2月10日

／目標・計画の達成状況／

- ・ 目標達成率が高すぎるので、次年度より、目標の基準年度を毎年前年にすることで、有効な目標数値を設定すること。
- ・ 3S運動では特に各々が再利用を意識して取り組んだ結果が高評価に繋がったと考えられる。
- ・ 廃材を利用して収納棚を作成し収納場所を確保出来たため、整理整頓を意識できた。
- ・ 冬場の暖房をエアコンから灯油ストーブに切り替えたことでCO2排出に占める灯油使用の割合が21%となり、電気使用58%の次に多くなった。来期については灯油使用によるCO2削減を目標設定に加える。

／組織を取り巻く経済環境／

- ・ コロナ禍解禁により業務が増えている。今後どのような影響があるのかも注視し、製品の製造及びエコアクション21の取組みにどのような影響があるのかを考察する必要がある。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☐ 変更なし	☒ 変更あり ※次年度は目標基準年度を2022年に変更する。 ※灯油使用によるCO2排出削減を目標設定する。
実施体制	☒ 変更なし	☐ 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

- ・ 今期は整理整頓を強化し、部品棚に部品名のPOPを貼り付けし、どの部品がどこにあるか誰が見ても分かるようにすることで整理整頓を促した。



3Sのところで評価しておりますが、廃材等を使い棚台を作成したことにより
部品の保管場所が増えたことで、整理整頓に繋がった。(写真は一例)

